

鳥取短期大学自己点検・評価報告書

(別冊) 新型コロナウイルス感染症関連

令和 4 年 6 月 30 日版

目次

はじめに	1
【基準Ⅱ 教育課程と学生支援】	4
【基準Ⅲ 教育資源と財的資源】	8
【基準Ⅲ 教育資源と財的資源】	9
【基準Ⅲ 教育資源と財的資源】	10
【基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス】	11

はじめに

本報告書は、「令和4年度 鳥取短期大学 自己点検・評価報告書」の別冊（新型コロナウイルス感染症関連）として、新型コロナウイルス感染症に関連した本学の取り組みについて記載したものである。また、本報告書は「令和4年度 鳥取短期大学 自己点検・評価報告書」の本編と同様、一般財団法人大学・短期大学基準協会の定めた基準および観点に従う形で構成してある。

【基準Ⅱ 教育課程と学生支援】

[テーマ 基準Ⅱ-A 教育課程]

<根拠資料>

提出資料

002 鳥取短期大学学則

備付資料

- 161 WEB オープンキャンパス 録画動画
- 162 各種チラシ（WEB オープンキャンパス、個別相談、LINE de 相談）
- 163 ホームページ「受験生応援サイト」
https://www.cygnus.ac.jp/toritan_entrance/index.php?view=7209
- 164 ホームページ「オープンキャンパス」
https://www.cygnus.ac.jp/toritan_entrance01/index.php?view=5862
- 165 ホームページ『「LINE de 進学相談」を開催します！』
https://www.cygnus.ac.jp/toritan_entrance01/index.php?view=10427
- 166 ホームページ「とりたんチャンネル 動画 LINEUP」
https://www.cygnus.ac.jp/toritan_entrance01/index.php?view=10968

<テーマ 基準Ⅱ-A 教育課程の特記事項>

遠隔授業の実施（基準Ⅱ-A-2 関係）

（前期）

対面授業でスタートしたが、5月12日（水）に学生の陽性者が発生したことから、5月14日（金）まで休講とし危機管理委員会にて対策を協議した。

5月17日（月）から5月28日（金）の期間、全学科・専攻で遠隔授業に切り替えて授業を実施した。遠隔授業ができないものは休講とし、後日補講を行った。

5月31日（月）～6月25日（金）の期間、学年別に対面授業と遠隔授業を週替わりで交互に行う「分散登校」にて授業を実施した。

6月28日（月）以降、全学科・専攻で対面授業に戻して授業を実施した。前期試験、成績通知も対面で実施した。

（後期）

対面授業でスタートした。最終週に近い1月21日（金）、22日（土）と学生の陽性者が発生したことを受け、1月24日（月）から1月31日（月）までの期間、全学科・専攻で遠隔授業に切り替えて授業を実施した。遠隔授業ができないものは休講とし、後日補講を行った。

後期試験について、対応可能な科目については実施方法を対面での試験からオンライン試験やレポート課題提出などに変更して実施した。

成績通知をWEB（Active Academy）での通知に変更し、必要な学生にはオンラインで

面談を行った。また、特に必要な場合は後日個別に対面で面談を行った。

集中講義では、担当教員の意向により、対面授業と遠隔授業の両様が見られた。

募集広報活動（基準Ⅱ-A-5 関係）

オープンキャンパスは会場型と並行し、WEB 型を実施することで会場型の実施ができない場合（令和 2 年度 3 回、令和 3 年度 1 回）にも対応した。高校生と直接会う機会が減少したが、個別相談の機会の増加や、SNS の活用、動画コンテンツの充実等に対応した。

【基準Ⅱ 教育課程と学生支援】

[テーマ 基準Ⅱ-B 学生支援]

<根拠資料>

備付資料

- 031 国際文化交流学科科会議事録（令和3年度）
- 033 住居・デザイン専攻科会議事録（令和3年度）
- 035 幼児教育保育学科科会議事録（令和3年度）
- 167 ホームページ『授業「異文化交流」で県内 ALT・国際交流員の方とオンラインで交流しました』<https://www.cygnus.ac.jp/inter/index.php?view=12535>
- 168 新型コロナウイルス感染症への対応（生活学科食物栄養専攻）
- 169 令和3年度前期 健康・行動記録表
- 170 令和3年度 給食施設実習 健康・行動記録表
- 171 新型コロナウイルス感染症に関する誓約書
- 172 令和3年度 給食施設実習について（依頼）
- 173 承諾書
- 174 技術指導の取り扱いについての協定書
- 175 幼児教育保育学科 令和3年度 健康・行動記録表
- 176 新型コロナウイルス感染症に伴う教育実習・保育実習の対応について【学生版】
- 177 ホームページ「新型コロナウイルス感染症に関する特設ページ」
<https://www.cygnus.ac.jp/index.php?view=10424>
- 188 5/11(月)以降の時間割について(お知らせ)(5月7日サイボウズ掲示板に掲示)
- 190 アルバイトに関する取決めについて(お知らせ): 8月4日
- 191 アルバイト許可の面談フォーム(X-point)(1月6日サイボウズ個人フォルダ【短大教員全員】に送信)
- 192 面談記録(アルバイト)(X-point フォーム様式)
- 193 奨学生委員会議事録(令和3年度)
- 194 遠隔授業、WEB 会議、動画配信、テレワーク関係のお役立ちリンク集(サイボウズ office 社内 Q&A)
- 197 学友会総会資料(学生課 4月)
- 198 令和3年度シグナス彩(大学祭)(学生課 10月)
- 199 令和3年度版「新型コロナウイルス感染症拡大予防ガイドライン」
- 201 シグナス寮感染対策動画「シグナス寮の感染予防の取り組み」20220301
- 202 「令和3年度学びの継続緊急給付金支給について」の報告書
- 204 新型コロナウイルス感染症対策助成金 実績報告書
- 205 ホームページ『鳥取県協同組合連絡協議会さまよりいただいた「応援物資」を学生へ配布しました。』
https://www.cygnus.ac.jp/college_news/index.php?view=12362

- 206 ホームページ「フードドライブ（食品持ち寄り活動）を実施しました。」
https://www.cygnus.ac.jp/college_news/index.php?view=12344
- 207 ホームページ「地域からいただいた支援物資を学生へ無料で配布しました。」
https://www.cygnus.ac.jp/college_news/index.php?view=12365
- 208 ホームページ「倉吉打吹ライオンズクラブ様よりコピー用紙等をいただきました。」
https://www.cygnus.ac.jp/college_news/index.php?view=12346
- 209 WEB 合同企業説明会 WEB 面接注意点（キャリア支援課 4 月）
- 210 「鳥取短期大学就職企業説明会」について（キャリア支援課 5 月 7 日）
- 211 「保育学生のための個別職場説明会」実施要項（キャリア支援課 6 月）
- 218 ホームページ「学生応援企画パックごはんの無料提供を実施しました。」
https://www.cygnus.ac.jp/college_news/index.php?view=12281

<テーマ 基準Ⅱ-B 学生支援の特記事項>

国際文化交流学科

海外研修として実施する「異文化研修」をオンライン海外研修として実施し、学生 5 名が受講した。「異文化交流」では、対面交流を中止し、代替措置として県内に在住する異文化圏の方々とオンライン交流を実施した。「地域社会体験 A」では大学祭でのパネル展示中止の代替措置として、オンライン成果発表会を実施した。

生活学科情報・経営専攻

今年度においては、遠隔授業（オンデマンド方式 moodle、ライブ式 Google Meet）を遠隔授業期間中、前期も後期も全専任および一部の非常勤の授業担当者が実施可能な形で行った。学生は、個人所有のパソコンもしくは本学の学生貸出用ノートパソコンで参加した。自宅等のネット接続が不安定なものもいたため、事後に授業動画を閲覧できるようにした。

生活学科住居・デザイン専攻

講義系科目の遠隔授業を行う場合は、主に Google Classroom と Meet の併用による同時双方向型の授業を実施した。実習・演習系科目は、使用機材・ソフトの制約上、対面方式による集中講義を軸とし、「基礎デザインⅠ」など一部の科目は、スケッチ等の演習から評価までを遠隔で実施したほか、オンデマンド方式も採用した。また、来県が難しい県外講師の担当科目は、昨年に引き続き、講師と教室を繋ぎ、遠隔での演習を行った。

生活学科食物栄養専攻

学外実習では、「新型コロナウイルス感染症への対応」を作成し、学生および学外実習先に周知した。学生へは「健康・行動記録表」「誓約書」を用いて、自己管理・報告を行うよう指導した。学外実習先へは感染症対策等を記載した「協定書」等の各書類を送付した。PCR 検査の陰性証明が必要な実習施設もあった。

幼児教育保育学科

昨年度策定した新型コロナウイルス感染症に関する実習ガイドライン「新型コロナウイルス感染症に伴う教育実習・保育実習の対応について【学生版】」のもと、「健康・

行動記録表」の記入・提出、感染予防対策の励行等に努めて実習に臨むと同時に、新たな実習先の確保、実習先の要請に応じる形での PCR 検査の陰性証明書の発行、実習時期の変更、中止判断に伴う学内実習（演習）への切り替え、実習前 1 週間の自宅待機と該当者への ICT を活用した授業内容の補償を行った。

全学

教職員向けの遠隔授業（オンデマンド方式 moodle、ライブ式 Google Meet）とテレワークのアンケートおよび講習会を実施した。

感染防止対策指導

通学・受講・食事などの基本的な学生生活について、帰省に伴う行動について、体調不良による欠席の扱いについてなど、節目ごとに注意点を周知した。

時間割の調整

学院内での新型コロナ陽性者を受け、5 月 17 日～28 日までの間、全学的に遠隔授業を開始した。その後、5 月 31 日～6 月 25 日までの間、1 年生と 2 年生を交互に隔週で対面と遠隔に切り替える「分散登校」にて授業を実施した。これに伴い、遠隔に対応できない授業や学科合同の授業の分散などの調整をはかり、「分散登校」に合わせた時間割を新たに編成して授業を進めた。また、後期も学院内での陽性者の発生により、1 月 24 日～31 日までの間、全学的に遠隔授業を実施した。その後の後期末試験についても対応可能なものについては遠隔実施とした。

教室の消毒作業（基準Ⅱ-B-2 関係）

毎回の授業が終わるごとに、科目担当者の指示で受講生が各自、教室に備え付けられた除菌シートを使用して机や椅子などを除菌した。

昼食後にも除菌するため、一般教室に別途専用の除菌セットを設置した。

アルバイト（基準Ⅱ-B-3 関係）

原則として自粛を求めるが、経済的理由などで必要不可欠な場合、アルバイトを希望する学生が担任と面談を行い、担任→学科長→教務部長のルートで許可を与えている（令和 3 年 1 月 6 日以降、X-point で管理）。累計で延べ 148 名に許可を出している（令和 4 年 3 月 10 日現在。49 期生 12 名、50 期生 67 名、51 期生 65 名、専攻科生 4 名）。

ヘルスサポートセンターの活動（基準Ⅱ-B-3 関係）

専任カウンセラーが着任し、担任や保健室とも連携してより効果的な学生支援ができるようになった。

奨学金（奨学生委員会取扱い）（基準Ⅱ-B-3 関係）

以下の奨学金について委員会で協議し、なるべく多くの学生に奨学金が行き渡るよう努めた。

- ①生命保険協会「保育士養成給付型奨学金」（5 月）
- ②日本学生支援機構奨学金（在学採用）（6 月、7 月）
- ③とりたん奨学金（6 月）
- ④とりたん後援会奨学金（7 月）
- ⑤日本学生支援機構奨学金（適格認定）（9 月、3 月）
- ⑥日本学生支援機構奨学金（在学採用二次推薦）（10 月）

⑦学生等の学びを継続するための緊急給付金（文部科学省）（1月）

学友会活動

感染予防指導を徹底し、サークル活動による陽性者の発生を防ぐことに努めた。コロナ禍が長期化するなかでも学友会活動の活性化を模索していたが実際にはサークル活動は大幅な活動縮小となった。一方、大学祭については、クラス単位での企画とし、人と人との接触を極力避ける方法で開催した。他大学の多くが大学祭を取り止めたなか、陽性者の発生なく大学祭を実施できた。

シグナス寮

集団生活となる寮内での感染症予防について、新たに「新型コロナウイルス感染症拡大予防ガイドライン」を作成し、初期の対応などが明確となった。また、感染症予防強化のためのオリジナル動画を作成し、寮内における感染対策を強化した。

補助金等

新型コロナウイルス感染症に関する学生への国・市等からの補助金、物資支援等については下記のとおりである。

学生支援の内容	補助金等の受給先	補助金額等
学業継続支援金（該当者一人当たり 100 千円）	日本学生支援機構	18,100 千円
学生食堂食事券配布（一人当たり 3 千円）	日本学生支援機構	855 千円
生活困窮学生へ米、レトルト食品他	鳥取県生協他	65 人分
フードドライブ食品	鳥取県、鳥取県生協	130 人分×2 回
保湿クリーム（化粧品）	鳥取県生協	300 個
お米他	倉吉市社会福祉協議会	120 人分
お米	打吹ライオンズクラブ	60 kg
コピー用紙	打吹ライオンズクラブ	25 箱
お米他	（農）やまかわ、（株）へいせい	150 kg

進路指導

県外での就職試験の受験生動向を把握して対応した。4 月に WEB 説明会および面接のための講座を開講し WEB 対応を徹底した。就職企業説明会は対面で実施したが、保育学生のための職場説明会は中止して各施設、法人ごとに個別にオンラインで実施した。

キャリア支援教育

「インターンシップ A」「インターンシップ B」は予定通り開講した。キャリアガイダンス等は学科別に実施するとともに、オンデマンド方式やコンテンツ教材（動画）も活用した。

【基準Ⅲ 教育資源と財的資源】

〔テーマ 基準Ⅲ-A 人的資源〕

＜根拠資料＞

備付資料

- 212 危機管理委員会議事録（令和元年度～令和３年度）
- 213 「COVID-19 パンデミックの行く末を考える」（2021.9.17 研修資料）
- 215 学生アルバイト募集チラシ

＜テーマ 基準Ⅲ-A 人的資源の特記事項＞

新型コロナウイルス感染症への危機管理対応のため、令和２年３月２日に危機管理委員会を立ち上げ、令和４年３月末日現在で累計 77 回の委員会を開催。各種行事の開催判断と実施方法、感染予防対策、遠隔授業対策、学生支援対策などの方針を決定している。

「COVID-19 パンデミックの行く末を考える」というテーマで鳥取看護大学の感染免疫学が専門の教員を講師に迎え、県内高等教育機関の教職員および鳥取県教育委員会、鳥取県社会福祉協議会、県内の商工会議所、中小企業団体中央会、県立厚生病院に対して研修会を実施した。（令和３年９月 17 日）

教職員、学生による講義室等学内施設の使用後の除菌作業が定着したほか、大講義室やホールなど大型施設については、学生アルバイトを募って除菌作業を継続実施している。消毒液、除菌シートなどのグッズの補充についても令和３年度から学生アルバイトに変更した。

また、学内感染拡大予防のため、事務室のレイアウトを変更し、事務机の間隔を 2 メートル以上空ける分散配置を実施した。さらに、在宅勤務も推奨した。

遠隔授業が必要になったことに合わせて、専任教員を講師に遠隔授業の実践例を学ぶ FD 研修会を実施した。また、学科 FD と学生 FD で遠隔授業を振り返り、課題を抽出・共有した。

【基準Ⅲ 教育資源と財的資源】

〔テーマ 基準Ⅲ-B 物的資源〕

＜根拠資料＞

備付資料

194 遠隔授業、WEB 会議、動画配信、テレワーク関係のお役立ちリンク集（サイボウズ office 社内 Q&A）

＜テーマ 基準Ⅲ-A 人的資源の特記事項＞

事業継続計画（BCP）の一環として電子メールや遠隔授業等のセキュリティ向上のため、オンプレミスサービスから無償の Google Workspace for Education への移行を令和 2 年 12 月 25 日に完了した。さらに有償サービス Education Plus の利用を令和 3 年 12 月 7 日から開始して、Meet の人数制限が 100 名から 250 名へ拡大し（ストリーミングは 250,000 人まで拡大）、ブレイクアウトセッション機能、出欠の自動集計機能、ノイズキャンセル機能、さらに Classroom でのレポートの独自性検出機能が利用できるようになった。また、教職員向けにテレワーク講習会も実施した。

学生食堂の座席を制限（基準Ⅲ-B-2 関係）

4 人掛けのテーブルを、当初は 2 人としていたが、その後 1 人に制限した。座れる座席以外には、テーブル上面にその席が使用できない旨のメッセージを貼付した。また、黙食を促す掲示をし、食後にテーブルや椅子を除菌するアルコールとペーパータオルを各テーブルに設置した。

【基準Ⅲ 教育資源と財的資源】

[テーマ 基準Ⅲ-C 技術的資源をはじめとするその他の教育資源]

<根拠資料>

備付資料

- 194 遠隔授業、WEB 会議、動画配信、テレワーク関係のお役立ちリンク集（サイボウズ office 社内 Q&A）
- 217 学生貸出用パソコン案内チラシ
- 219 文部科学省遠隔授業に向けた環境整備事業

<テーマ 基準Ⅲ-C 技術的資源をはじめとするその他の教育資源>

遠隔授業を想定し、各教室にパソコンとプロジェクターを設置（文部科学省遠隔授業に向けた環境整備事業を活用）、教務課で学生向けのカメラを購入（10 台）するなど、遠隔授業に関わる教育資源整備のための取り組みを令和 3 年度も継続実施した。また、各学科・専攻の定員の 20%を上限に学生へノートパソコンの貸し出しも継続している（貸出の開始は、令和 3 年 2 月 1 日）。加えて、教職員向けの遠隔授業・TV 会議等の講習会も継続している。

【基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス】

[テーマ 基準Ⅳ-A 理事長のリーダーシップ]

<根拠資料>

備付資料

212 危機管理委員会議事録（令和元年度～令和３年度）

<テーマ 基準Ⅳ-A 理事長のリーダーシップの特記事項>

新型コロナウイルス感染拡大に対応すべく、令和２年３月２日に危機管理委員会を立ち上げ、令和４年３月末までに計 77 回の委員会を開催した。理事長の強いリーダーシップの下、対面授業を基本としつつ迅速かつ機動的に方針を決定し対策を実施している。加えて、学生・教職員に限らず、県内の学校関係者を中心とした新型コロナウイルスワクチンの職域接種を法人内で実施した。